

神戸市文書館 お問合せ・刊行物申込 [ホーム](#)

利用案内 | 刊行物 | 収蔵資料 | 検索 | 展示の案内 | 神戸史跡地図 | 神戸歴史年表 | リンク



米軍資料にみる神戸大空襲

はじめに	神戸空襲の概要
神戸空襲の概要	概要
神戸市史にみる空襲	1941年(昭和16)12月8日の日本軍の真珠湾攻撃(太平洋戦争開戦)から、4ヶ月後、1942年(昭和17)4月18日、神戸市上空に、空母ホーネットを発進したアメリカ軍の爆撃機ノースアメリカンB25(ミッチェル)1機が来襲し、市内数カ所に焼夷弾を投下した。この日、ジミー・ドウリットル中佐率いるB-25爆撃機16機は、神戸市の他、東京市、川崎市、横須賀市、名古屋市、四日市市を爆撃した。日本本土初空襲であった(ドウリットル空襲)。
アメリカ軍の空襲記録	1944年(昭和19)11月1日、マリアナ基地(サイパン・グアム・テナン島)からのB29がはじめて日本本土上空に飛来した。阪神間の空にB29がはじめて出現したのは、同年12月15日のことである。午前9時ごろ、阪神地区や大阪の上空に、偵察を目的とした1機が進入した。そして神戸市内への最初の投弾は、翌45年1月3日である。
B29	マリアナ基地のB29部隊による日本本土爆撃は、1945年3月中旬の東京、名古屋、大阪、神戸といった4大都市への焼夷弾攻撃を境に2つの段階に分けることができる。
作戦日誌	第1段階(1944年11月下旬~1945年3月上旬)
作戦任務要約	第1段階では、日本本土への主要な爆撃20回のうち、16回は航空機工場、特に航空機エンジン工場への通常爆弾による精密爆撃(precision bombing、軍事目標をピンポイントで攻撃)であった。阪神間では、川崎航空機明石工場がその目標となった。また、「戦術的実験」として、東京・名古屋・神戸都市工業地域に対し、焼夷弾による地域爆撃(area bombing、市街地域を面として攻撃)がおこなわれた。
作戦任務報告	2月4日の神戸市街地への攻撃は、この「戦術的実験」の地域爆撃に位置づけられる。
1945年2月4日	第2段階(1945年3月中旬~8月15日)
作戦概要	第2段階は、精密目標への高高度昼間編隊爆撃だけでなく、都市工業地域に対する低高度夜間焼夷弾攻撃および中高度昼間攻撃法も併用することになった。3月中旬から6月15日までの、5大都市(東京、名古屋、横浜、神戸、大阪)への大量焼夷弾による地域爆撃、続いて6月17日以降中小都市がその対象となった。
神戸の意味	神戸は、3月17日、6月5日の2回攻撃をうけ、都市工業地域の目標リストからはずされることになる。続いて6月17日以降は、各地の中小都市が焼夷弾攻撃の対象となった。現在の神戸市東灘区は、当時武庫郡御影町、魚崎町、住吉村、本山村、本庄村であった。アメリカ軍は、尼崎から神戸にはさまれた地域を、「西宮-御影市街地」として1つの都市地域ととらえ、8月6日に、中小都市の一つとして、地域爆撃の対象とした。
爆撃投下	地域爆撃と並行して、精密目標への高高度昼間編隊爆撃がおこなわれた。兵庫県内には、川崎航空機(現川崎重工業)、川西航空機(現新明和工業)といった航空機メーカーが存在した。これらの各工場が精密爆撃の対象となったのである。川西航空機深江製作所は、本庄村(現神戸市東灘区)にあり、5月11日に通常爆弾による攻撃をうけた。
航跡図	神戸沖には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
空海救助計画図	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
損害評定	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
1945年3月17日	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
作戦概要	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
神戸の意味	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
爆撃投下	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
航跡図	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
空海救助計画図	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
損害評定	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
1945年5月11日	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
作戦概要	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
神戸の意味	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
爆撃投下	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
航跡図	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
空海救助計画図	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
損害評定	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
1945年6月5日	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
作戦概要	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
神戸の意味	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
爆撃投下	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
航跡図	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
空海救助計画図	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。
損害評定	神戸市には、5月3日から機雷投下がはじまった。さらに7月24日には、神戸市にある川崎車両、三菱重工業、神戸製鋼所、国有鉄道工場(鷹取工場、Imperial Government Railway Shops)に模擬原爆が投下された。原爆投下のための訓練として、爆薬が装てんされたブルトニウム型原爆(長崎型原爆)と同重量、同型のポンプキン爆弾の目標となったのである。

[ページトップへ](#)

神戸大空襲とは

日本側の資料(神戸市史第三集に掲載)によると、神戸市上空にアメリカ軍機があらわれたのは84回である。そのうち、神戸大空襲とは、マリアナ基地のB29部隊が、神戸(市街地あるいは軍事目標)を第1目標として攻撃した以下の空襲をいう。なお、その他神戸沖への

損害判定
1945年8月6日
作戦概要
神戸の意味
爆撃投下
航空図
空海救助計画図
損害判定

機雷封鎖や模擬原爆の投下もおこなわれた。

1945年(昭和20)

・2月4日(日)(目標:神戸市街地)

東京市街地(1944年11月29日)・名古屋市街地(1月3日)に続く3回目の市街地を第1目標とした焼夷弾による攻撃。3月以降本格化する市街地への焼夷弾攻撃の実験的性格をもつ。

・3月17日(土)(目標:神戸市街地)

3月10日の東京大空襲を皮切りに本格化したカーチス・E・ルメイ司令官による大都市に対する低空からの焼夷弾爆撃の第4回目の攻撃。

・5月11日(金)(目標:川西航空機深江製作所)

川西航空機甲南製作所(武庫郡本庄村、現神戸市東灘区)に対する精密爆撃作戦として実施。

・6月5日(火)(目標:神戸市街地)

大都市市街地への焼夷弾攻撃の一環。爆撃後の航空写真による損害判定により、神戸を以後の焼夷弾攻撃の目標リストから除いた。

・8月6日(月)(目標:西宮・芦屋・御影市街地)

御影町・魚崎町・住吉村・本山村・本庄村(現神戸市東灘区)から、芦屋市を経て西宮市・鳴尾村(現西宮市)にいたる地域、いわゆる阪神地域を一つの市街地目標として爆撃。中小都市市街地への焼夷弾攻撃の一つに位置づけられる。

[ページトップへ](#)

月日	機種	爆撃機数(機)	攻撃時刻	弾種等	投下爆弾トン数	攻撃高度(メートル)	第一目標	作戦の位置づけ
2月4日(日)	B29	69	13:50~14:24	焼夷弾 破砕弾	172.8	7470~8230	神戸市街地	試行的大都市市街地への焼夷弾攻撃
3月17日(土)	B29	306	2:29~4:52	焼夷弾 破砕弾	2328.1	1520~2900	神戸市街地	大都市市街地への焼夷弾攻撃
5月11日(金)	B29	92	9:53~10:03	爆弾	459.5	4790~6100	川西航空機 深江製作所	主要工業目標に対する昼間通常爆撃
6月5日(火)	B29	474	7:22~8:47	焼夷弾 破砕弾	3079.1	4160~5730	神戸市街地	大都市市街地への焼夷弾攻撃
8月6日(月)*	B29	250*	0:25~* 2:01	焼夷弾 破砕弾 爆弾	2003.94	3840~* 48804	西宮一御影 市街地*	中小都市市街地への焼夷弾攻撃

(注)* 西宮・芦屋・御影町(現・神戸市東灘区)の3か所が第一目標(西宮一御影市街地)の照準点(平均弾着点)。爆撃機数、攻撃時刻、投下爆弾トン数、攻撃高度はいずれも3か所を攻撃したもの。

出典:「作戦任務報告(Tactical Mission Report)」、「作戦要約(Mission Resume)、作戦概要(Mission Summary)」等から作成

[ページトップへ](#)

神戸空襲で使われた爆弾・焼夷弾

神戸空襲では、焼夷弾、破砕弾、爆弾が投下された。1、焼夷弾は爆弾の一種。攻撃対象を焼き払うために使用。2、破砕弾は、爆弾の一種。爆発によって多量の鉄片が飛散し、人員を殺傷、機材を破壊。3、爆弾は容器に爆薬を装填して信管を取り付けた兵器であり、爆風、破片、火災による被害が目的。軍事目標に投下。

1、焼夷弾・集束焼夷弾

M47A2 100ポンド焼夷弾 [70ポンド 31.8kg]

ナパーム焼夷弾。搭載にはT19集束器で6発ずつ束ねて懸架。

M76 500ポンド焼夷弾 [480ポンド 217.9kg]

大型ナパーム・マグネシウム焼夷弾

E28 500ポンド集束焼夷弾 [350ポンド 158.9kg]

E36 500ポンド集束焼夷弾 [360ポンド 163.4kg]

E46 500ポンド集束焼夷弾 [425ポンド 193.0kg]

E48 500ポンド集束焼夷弾 [515ポンド 233.8kg]

六角形の6ポンド(2.7kg)焼夷弾(M69)を38発内蔵したクラスター(親子)焼夷弾。

ゼリー状のナパーム剤を内蔵。(E28、E36、E46)

E48は、8.7ポンド(3.9kg)のナパーム黄燐焼夷弾(M74)を38発内蔵。

M17 500ポンド集束焼夷弾 [465ポンド 211.1kg]

六角形の4ポンド(1.8kg)焼夷弾(M50)を110発内蔵したクラスター(親子)焼夷弾

テルミット・マグネシウム剤を内蔵。日本の木造家屋に対しては、貫徹力は強すぎるもの。

2、破砕弾

T4E4 500ポンド破砕集束弾 [425ポンド 193kg]

20ポンド(9kg)破片弾(M41)を20発集束した人馬殺傷用破片弾。

弾体の周囲を螺旋状の環が巻いており、炸裂時に細片となって飛散し、人馬を殺傷した。

3、通常爆弾

M64 500ポンド通常爆弾 [535ポンド 243kg]

日本流に言えば、250キロ爆弾。爆薬が充填された破壊用爆弾。

* 500ポンドは公称重量。[]内は完成品平均重量。kg換算値も併記。

[ページトップへ](#)

神戸市文書館で閲覧可能な原文資料

作戦任務報告 (Tactical Mission Report)

第26号(2月4日)、43号(3月17日)、172号(5月11日)、188号(6月5日)、314号(8月6日)

作戦要約 (Mission Resume, Mission Summary)

第26号(2月4日)、43号(3月17日)、172号(5月11日)、188号(6月5日)、314号(8月6日)

財団法人大阪国際平和センターが所蔵するアメリカ軍資料のマイクロフィルムを利用した。

[ページトップへ](#)

主な参考文献

- ・新修神戸市史編集室「神戸空襲に関するアメリカ軍資料・戦術作戦任務報告」
『神戸の歴史』第13号、1985年
- ・地域研究史料館「【史料紹介】兵庫県下の空襲に関する米軍戦術任務報告(三)ー二月四日
神戸、五月ー一日 本庄、六月九日 鳴尾・明石ー」『地域史研究』第19巻第1号 1989年
- ・地域研究史料館「【史料紹介】兵庫県下の空襲に関する米軍戦術任務報告(六)ー
七月二四日 宝塚、八月五日 西宮ー御影ー」『地域史研究』第21巻第1号 1991年
- ・神戸市「神戸市史 第三集 社会文化編 第八章戦災 第四節空襲記録」1965年
- ・小山仁示編『太平洋戦争下の防空資料』大阪市史編纂所 1981年
- ・ディヴィット・A・アンダーソン、大出健訳『戦略爆撃機B-29』講談社 1983年
- ・カール・バーガー、中野五郎、加登川幸太郎訳『B-29』サンケイ出版 1985年
- ・奥住喜重『中小都市空襲』三省堂 1988年
- ・小山仁示『日本空襲の全容』東方出版 1995年
- ・奥住喜重『B-29 64都市を焼く』揺籃社 2006年
- ・John Pimlott, B-29 Super Fortress, Bison Books, 1980

[ページトップへ](#)



米軍資料にみる神戸大空襲

- はじめに
- 神戸空襲の概要
- 神戸市史にみる空襲
- アメリカ軍の空襲記録
- 日之日
- 作戦日誌
- 作戦任務要約
- 作戦任務報告
- 1945年2月4日
- 作戦概要
- 神戸の意味
- 焼夷弾投下
- 航跡図
- 空海救助計画図
- 損害評定
- 1945年3月17日
- 作戦概要
- 神戸の意味
- 焼夷弾投下
- 航跡図
- 空海救助計画図
- 損害評定
- 1945年5月11日
- 作戦概要
- 神戸の意味
- 焼夷弾投下
- 航跡図
- 空海救助計画図
- 1945年6月5日
- 作戦概要
- 神戸の意味
- 焼夷弾投下
- 航跡図
- 空海救助計画図

6月5日の爆撃

6月5日 作戦概要 作戦要約(Mission Summary)から

SECRET
MISSION SUMMARY
Mission Number 188 15 June 1945

1. Date: 5 June 1945
2. Targets: Kobe Urban Area (90,25-11)
3. Participating Units: 58th, 73rd, 313th, and 516th Wings
4. Bomber A/W Aircraft: 530 (including 7 Super Bombers)
5. B A/W Bombing Primary: 85.3% (473 primary and 1 opportunity)
6. Type of Bombs and Fuze: B-40, non-delay area and varied delay tail; 742's, varied delay nose and non-delay tail; M106's, instantaneous nose and non-delay tail; and M17-A1, 84 sec. nose and non-delay tail.
7. Tons of Bombs Dropped: 3070.3 primary and 84.7 on opportunity
8. Time Over Primary: 050530Z - 050642Z
9. Altitude of Attack: 13,650 - 18,800 Feet
10. Weather Over Targets: O/10 - R/30
11. Total A/C Loss: 11
12. Nature of Missions: About 3.8 square miles of the city were destroyed and about 1/8 square mile east of Kobe. Nine numbered industrial targets were damaged. Total damage to city is 8 square miles. About 51% of the built up portion of the city. Of the 732's loss, 7 were due to R/10, 3 to enemy A/A, 3 to E/10 and A/A, 1 crashed at Ito Jima and 1 to unknown causes. Forty-nine A/C were non-effective. The 100 B-24's sighted made 671 attacks. Claims were 86-31-19. E/11 was no eye, unable to identify, generally accurate and damaged 159 B-24's. Forty-three A/C landed at Ito Jima. Average Bomb Load: 15,174 lbs. Average Fuel Reserve: 877 gallons.

作戦任務第188号

- 1, 日付: 1945年6月5日
- 3, 目標: 神戸市街地 (90.25-11)
- 5, 出撃爆撃機数: 530機
- 6, 第1目標爆撃機数の割合: 89.87% (第1目標473機)
- 7, 第1目標上空時間: 6月5日7時22分~8時47分
- 8, 攻撃高度: 13,650~18,800フィート (約4160 ~5730m)
- 10, 損失機数: 11機
- 11, 作戦任務の概要: 市の約3.8平方マイル(約9.8 km²)と神戸の東方0.5平方マイル(約1.3 km²)を破壊した。番号を付した工業目標9か所に損害を与えた。市の損害累計は8平方マイル(約20.7 km²)、市の建物部分の約51%。

Mission Summary(作戦任務第188号) 拡大図をみる

6月5日 神戸の意味 アメリカ軍からみた神戸 作戦任務報告第188号から

a.作戦開始日の選定
前回の神戸への焼夷弾攻撃(作戦任務第43号)は、重要な工業目標を含む神戸の一定区域に損害を与えることができなかった。他の都市地域への攻撃での経験から、もう一度焼夷弾攻撃を行えば、神戸を焼夷弾攻撃目標からはずせるであろうと考えられた。別の焼夷弾攻撃目標への攻撃計画が立案されていたが、神戸の天気予報が良好であったので、6月5日に集中的打撃を与えることが決定された。

b.目標の重要性
神戸は、日本の最も重要な輸送中枢であり、重工業、造船業並びに船舶業者が多く存在している。この作戦任務に割り当てられた目標地域は、いくつかの大きな製鉄工場、ゴム工場、重要な鉄

報告評定
1945年8月6日
作戦概要
神戸の意味
爆弾投下
航跡図
空海対峙計画図
報告評定

SECRET

SECRET
By Auth. of the C.O.
III Bomber Command
3 June 1945
File 141111

MEMORANDUM
FOR THE COMRADE
INFO 234

SUBJECT: Report of Attack on Kobe on 5 June 1945.

TO : Commanding General, Twentieth Air Force, Washington 25, D.C.

1. IDENTIFICATION OF MESSAGE

a. Field Order Number 82, Headquarters III Bomber Command, dated 4 June 1945, directed the 58th, 73rd, 83rd and 94th Bombardment Wings to participate in a massed-effort attack against the Kobe Ryken Area in Western Honshu.

b. Target Description

(1) The Kobe Ryken Area was designated as the primary visual and radar target.

(2) No secondary or back reserve targets were specified.

2. OPERATIONAL PLAN OF OPERATIONS

a. Selection of Targets: The previous incendiary attack against Kobe, Mission Number 43, failed to damage certain portions of the city which contained important industrial targets. Experience gained from similar attacks on other urban areas indicated that another incendiary attack would probably eliminate Kobe as an incendiary target. Plans had been made to attack another incendiary target but on the basis of a favorable weather prediction for the Kobe area, this decision was made to execute on 5 June.

b. Importance of the Target: Kobe is Japan's most important transportation center and also has such heavy industry, shipbuilding activities and shipping facilities. The designated target area for this mission contains several large steel plants, a rubber factory, an important railroad station, part of the commercial district and a densely built-up area.

c. Details of Planning-Operations

(1) Bombing

(a) Disruption of Bomb Loads

1. All aircraft were to carry incendiary bombs and clusters. Each aircraft was authorized to carry 1 M69 fragmentation cluster for the purpose of interfering with organized fire fighting defenses.

- 1 -

SECRET

道駅、商業地区の一部と建築物密集地域を含んでいる。

作戦任務報告 第188号 (Tractical Mission Report) 拡大図をみる

[ページトップへ](#)

6月5日 爆弾投下 神戸に投下された爆弾 作戦任務報告第188号から

3. It was estimated that 4 main points of impact would require 3 groups each, and the fifth main point of impact would require 2 groups. (See Annex 4, Part II, for picture of main points of impact and assignment of groups to each.)

4. The number 1 and 2 main points of impact were each to be attacked by 1 group carrying AM47A2 incendiary bombs and 2 groups carrying M69 incendiary clusters containing M-50 bombs. This combination was considered to be the best with which to attack these 2 highly inflammable residential areas.

5. The number 3 and 4 main points of impact were each to be attacked by 1 group carrying AM47A2 incendiary bombs and 2 groups carrying AM47A1 incendiary clusters containing M-50 bombs. The areas surrounding these 2 points were principally industrial in nature and required the moderate penetration and multiple hits that such a combination of bombs was expected to give.

6. The number 5 main point of impact was to be attacked by 4 groups, 2 carrying AM47A2 bombs and 2 carrying clusters of M-69 bombs, this combination considered the best with which to attack a mixed residential and industrial area.

7. Group bomb loading for the 4 Wings was to be as follows:

Wing	AM47A2	M-69	AM47A1
58th	2 groups	1 group	1 group
73rd	2 groups	1 group	1 group
83rd	1 group	2 groups	2 groups
94th	2 groups	1 group	1 group

8. The AM47A2 incendiary bombs were to be fused with an instantaneous fuse. All incendiary clusters were to be fused to open 3000 feet above the target to insure maximum functioning, proper penetration and angle of impact. The M69 fragmentation clusters were to be fused to open 3000 feet below the aircraft to insure opening below all planes of the formation within the target area.

(b) Bombing Data

1. Since some airplanes had already been loaded for the previously planned mission, bomb loadings were changed to utilize as much as possible the loads that were already in the aircraft. The loadings were worked out on the basis that a 4000-foot variable cluster fuse around each of the 5 main points of impact would place a density of 200 to 225 tons of bombs per square mile of the target area.

2. This daylight incendiary attack was planned along similar lines to the attack on Yokohama (Mission Number 106), with the chief difference being that bombing altitudes on this mission were to range between 13,000 and 15,000 feet, rather than at 18,000 feet and higher as in the Yokohama strike.

3. An approximate 25-degree axis of attack was specified for the following reasons:

a. It would permit the use of an easily identifiable initial point.

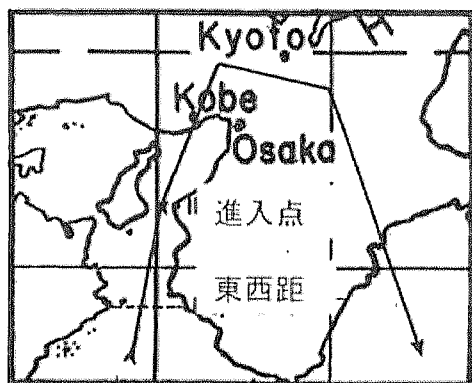
神戸に投下された爆弾
M47A2焼夷弾は、瞬発弾頭による起爆装置をセッ
T4E4破碎集束弾は、目標区域内にいる編隊の全機より下で作動するのを確保するために、機下3000フィート(約910m)で作動するように起爆装置をセッ
M69焼夷弾(E46集束焼夷弾)は最適な貫通力と弾着角度を確保するために、目標上空5000フィート(約1520m)で作動するように起爆装置をセッ

この昼間の焼夷弾攻撃は、横浜への攻撃とほぼ同じように計画。主な違いは、爆撃高度が、横浜攻撃では18000フィート(約5490m)又はそれ以上、神戸では11000~15000フィート(約3350~4570m)の範囲であったこと。

作戦任務報告 第188号より 拡大図をみる

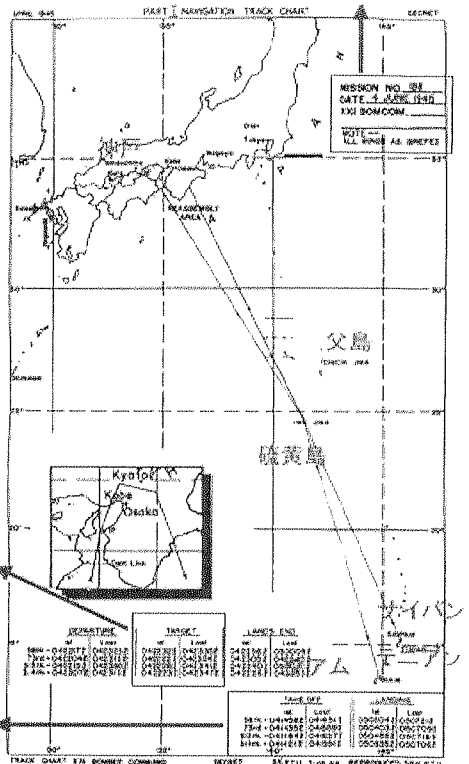
[ページトップへ](#)

6月5日 航跡図 マリアナ基地から神戸へ 作戦任務報告第188号から



作戦任務報告 第188号より 航跡図2

作戦任務番号第188号
 日時1945年6月4日
 第21爆撃機軍団
 記号
 全航空団指令のコース



目標上陸

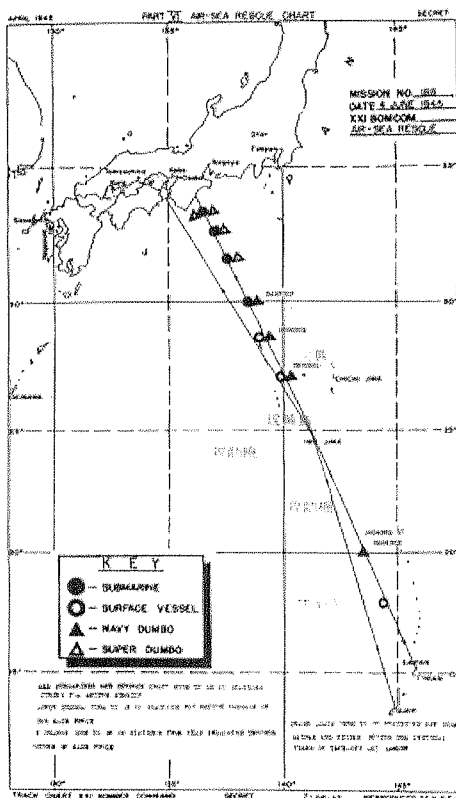
1番機	最終機
58W 05日 07時32分 05日 08時35分	73W 05日 07時22分 05日 08時24分
313W05日 07時28分 05日 08時41分	314W05日 07時23分 05日 08時47分

離陸		着陸	
1番機	最終機	1番機	最終機
58W 04日 23時58分 05日 01時51分	05日 14時04分 05日 16時21分	73W 04日 23時35分 05日 00時59分	05日 13時03分 05日 16時09分
313W04日 23時54分 05日 01時27分	05日 13時55分 05日 16時18分	314W04日 23時21分 05日 00時51分	05日 14時35分 05日 16時06分

作戦任務報告 第188号より 航跡図1 拡大図をみる

[ページトップへ](#)

6月5日 空海救助計画図 マリアナ基地から神戸へ 作戦任務報告第188号から



作戦任務報告 第188号より 空海救助計画図 拡大図をみる

海軍にはこの作戦任務の詳細が伝達され、潜水艦4隻、大型救助機4機、洋上艦艇3隻と救助艇が空海救助任務に割当てられた。

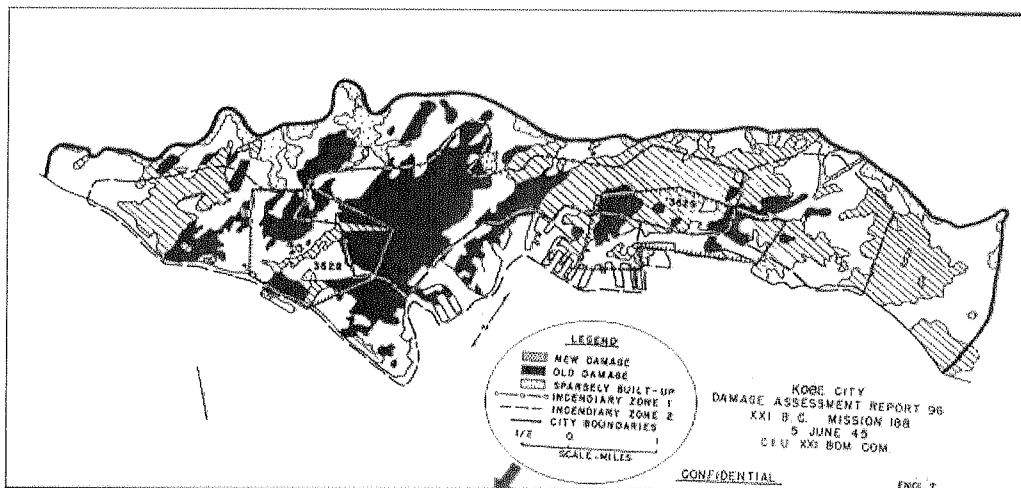
爆撃機1機が、敵機に激突された後、日本の海岸から2マイル(約3220m)離れた海上に不時着した。11名の乗組員のうち、5つのパラシュートが開くのが見られた。このうち、4名の乗組員は潜水艦によって救助された。

- 潜水艦
- 水上艦艇
- ▲ 海上救助機
- △ 超大型救助機

[ページトップへ](#)

6月5日 損害評定 作戦任務報告第188号から

第三部. 損害判定報告
1. 要約
 a 1945年6月5日、第21爆撃機軍団作戦任務188号の結果生じた神戸の損害は、合計4.35平方マイル(約11.3 km²)すなわち市街地の約28%に達した。
 b.工場に与えた損害には、破損ないし壊滅した番号のついている目標17カ所が含まれる。
 c.現在、神戸に与えた損害合計は、8.75平方マイル(約22.7 km²)すなわち市街地の約56%である。以前に神戸市に与えた損害が再測定され、神戸市の復元したモザイク地図に再記入された。



凡例
 ■ 今回の損害
 ■ 以前の損害
 ● 住家非密集地
 -○- 第一焼夷弾攻撃
 - - - 第二焼夷弾攻撃
 ——— 市境界線

作戦任務報告 第188号より 損害評定

[ページトップへ](#)

PART III - DAMAGE ASSESSMENT REPORT
KOBÉ CITY
1. Summary
 a. Damage to Kobe (including part of Misaki) resulting from XXI Bomber Command attack on 5 June 1945, totaled 4.35 sq. mi., or about 28% of the built-up portion of the city. Total area damaged from USA attacks was about 4.85 sq. mi., 0.5 sq. mi. being just SE of the limits of Kobe.
 b. Incendiary bombs included 17 numbered targets damaged or destroyed.
 c. Total damage to Kobe is now 8.75 sq. mi., or about 56% of the built-up portion of the city. Old damage to Kobe has been re-measured and reported as a separate report of this city. As a result, old damage previously reported as being 3.9 sq. mi. in XXI Bomber Command Report 96, now totals 4.4 sq. mi. The figures for the area of Kobe have also been changed due to a revision of the city boundary. The boundary adopted includes all of the target area for the above attack, and includes some of the densely built-up portion of Misaki. There was no adequate limits available for this last mentioned city.
 d. The area defined as Kobe (including part of Misaki) is 16.9 sq. mi., of which 1.3 sq. mi. is only sparsely settled, leaving 15.7 sq. mi. as the area of the built-up portion of Kobe. The limits of this area are indicated on the attached diagram.
DAMAGE WITHIN CITY LIMITS
 MISAKI - an area of about 0.35 sq. mi., NE of Target 1702 (destroyed).
 FURUKAWA - an area of about 0.15 sq. mi., NW of Target 1702, (destroyed).
2. Summary of Characteristics of Damage
a. Summary of Damage from Incendiary Bombs

Area	Sq. Miles	Percent
Area of City	15.7	28
Area of City destroyed	4.35	28
Area of Incendiary Zone I	3.45	22
Area of Incendiary Zone II	4.7	28
Area of Incendiary Zone II destroyed	1.3	28
Target Area 90.25 - 3628	1.5	38
Target Area destroyed	0.57	38
Target Area 90.25 - 3629	1.4	36
Target Area destroyed	0.5	36

b. Summary of Total Damage
 Area of City destroyed 4.35 sq. mi. 28%
 Total area destroyed 8.75 sq. mi. 56%

作戦任務報告 第188号より 損害評定
 拡大図をみる

2. 損害統計概要
 a 今度の攻撃による損害の概要

項目	平方マイル(km ²)	%
市街地面積	15.7(約40.7)	—
同 壊滅面積	4.35(約11.3)	28
第一焼夷弾攻撃地区面積	3.65(約9.5)	—
同 壊滅面積	1.14(約3.0)	31
第二焼夷弾攻撃地区面積	4.7(約12.2)	—
同 壊滅面積	1.3(約3.4)	28
目標地域 (90.25-3628)	1.5(約3.9)	—
同 壊滅面積	0.57(約1.5)	38
目標地域 (90.25-3629)	1.4(約3.6)	—
同 壊滅面積	0.5(約1.3)	36

[ページトップへ](#)

目標番号	目標名称	以前の損害	現在までの損害合計
------	------	-------	-----------

Area of Incendiary Bomb I Destroyed	Area of Incendiary Bomb II Destroyed	Target Area 90.25 - 90.28	Target Area 90.25 - 90.28	Target Area 90.25 - 90.28
3.65	4.7	1.5	1.4	1.8
3.24	1.04	1.04	1.04	1.04
92	66	32	32	32

Target Number	Name of Target	Oil Damage	Total Damage in Kobe
4	Manayama Glass Bottle Plant	100% destroyed	100% destroyed
5	Kobe Steel Works	7 small buildings destroyed	5 small buildings destroyed, Scatter of debris
6	Kobe Steel Works	Several small buildings destroyed	20% destroyed
7	Kawasaki Heavy Industry	Scattered minor damage	Scattered minor damage
13	Locomotive Car Co.	Minor damage	Scattered minor damage
14	Nippon Denryo Rubber Co.	100% destroyed	100% destroyed
17	Shinjo Gas Piping, Oil Storage	10% destroyed	10% destroyed, also 10% damage
22	Kobe Station Dist. No. 1	10% destroyed	20% destroyed, Scatter of debris
138	100 Shops	10% destroyed	10% destroyed
179	Shinjo Air Works Co.	60% destroyed	60% destroyed
1745	Kawasaki Machine Works	10% destroyed	40% destroyed
1747	Shi Electric Co.	100% destroyed	100% destroyed
1748	Kawasaki Heavy Ind.	10% destroyed	10% destroyed, Scatter of debris
1749	Kobe Steel Works	4 small buildings destroyed	4 small buildings destroyed, Scatter of debris
1759	Kawasaki Heavy Ind.	Minor damage	10% destroyed
2142	Kobe Gas Works	Minor damage	Minor damage
5028	Kobe Gas Works	10% destroyed	20% destroyed, minor damage
5039	Kobe Gas Works	10% destroyed	80% destroyed

References: 1. Area and Bomb Map of Kobe
2. OIG Damage Assessment Report 26

作戦任務報告 第188号より 損害評定
拡大図をみる

4	湊川火力発電所	—	30%破壊
5	神戸製鋼	小建物5棟破壊	小さい建物5棟破壊。点在する家屋破壊。
6	神戸製鋼	小建物数棟破壊	50%破壊
7	川崎重工	—	分散した小規模破損
11	川崎車両	小規模な損壊	分散した小規模破損
14	日本ダンロップ	—	100%破壊
17	ライジングサン石油	10%破壊	10%破壊 10%破損
22	神戸港第一地区	10%破壊	20%破壊。分散した小規模破損
538	鉄道省鷹取工場	—	35% 破壊
1719	日本エアプレーキ	—	60% 破壊
1745	川西機械	10%破壊	40% 破壊
1747	沖電気	100%破壊	100%破壊
1762	川崎重工業	—	10%破壊。分散した小規模破損
1768	神戸製鋼所	小建物4棟破壊	小建物4棟破壊。分散した小規模破損
1755	川崎重工業	—	15%破壊
2142	神戸ガス	—	小規模破損
XXI 5028	神戸ガス	—	80%破壊。20%小規模破損
XXI 5039	神戸ガス	25%破壊	80%破壊

[「神戸空襲の概要」ページへ](#)

[ページトップへ](#)